

## リーダー人材不足に関する九州企業の意識調査

# 「リーダー人材」に不足 九州企業の 66.5%が実感

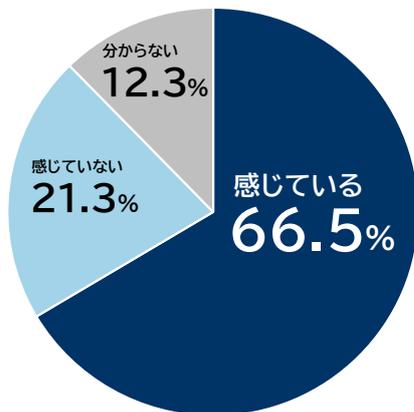
## ～課題は「リーダー職への意欲」がトップ～

少子高齢化の流れが強まり、国内企業は深刻な人手不足に直面している。2025年2月時点で、正社員の人手不足を感じている九州・沖縄地区(以下九州)の企業の割合は53.5%にのぼり、引き続き高い水準で推移している。そうしたなか、企業からは「質の高い人材を数多く育成することに難しさを感じている」といった課題が数多くあげられている。

そこで、帝国データバンク福岡支店では、九州企業の将来を担う「リーダー人材」(管理職相当以上)の不足感について調査を実施した。

調査期間は2025年2月14日～2月28日。調査対象は九州・沖縄地区2,638社、有効回答企業927社、回答率35.1%  
 本調査では、「リーダー」とは管理職以上に相当する役職者を指す

「リーダー人材」の不足感について



正社員・非正社員の人手不足割合 月次推移



## 調査結果(要旨)

1. 「リーダー人材」(管理職相当以上)の不足を感じている企業の割合は66.5%となった。
2. 課題は「リーダー職への意欲」が62.2%で唯一6割を超えトップとなった。「部下の育成能力」(56.2%)、「リーダーシップ」(54.2%)が続いた

# TDB Business View : リーダー人材不足に関する九州企業の意識調査

## Business View

### 1. 「リーダー人材」の不足、九州企業の66.5%が実感

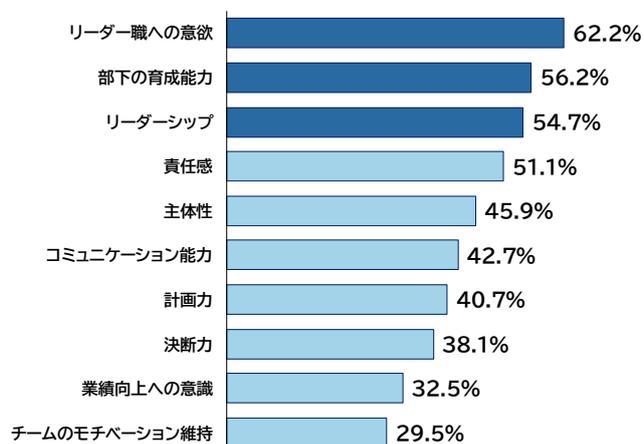
2025年2月時点で、正社員の人手不足を感じている企業の割合は53.5%にのぼり、引き続き高い水準で推移している。そこで、企業の将来を担う「リーダー人材」(管理職相当以上)の不足感について調査を実施した結果、九州企業の66.5%がリーダー不足を実感していた。正社員全体の人手不足の割合(53.5%)を大きく上回った。

課題の一つは、現リーダー層による次のリーダー人材の育成だ。企業からは、育成に必要な時間確保に関する難しさが数多くあげられた。

### 2. リーダー人材を育成するなかでは、「リーダー職への意欲」不足が課題としてトップに

リーダー人材の不足を「感じている」九州企業に対して、育成するうえでの課題を尋ねたところ、「リーダー職への意欲」が足りないという回答が62.2%で唯一6割を超え、最も高かった。次いで、「部下の育成能力」(56.2%)や「リーダーシップ」(54.7%)など、個人のパフォーマンスだけでなく組織力の向上に求められる力に関しても、半数以上の企業が課題としてあげる結果となった。

#### リーダー人材の育成課題(上位10項目、複数回答)



#### まとめ:テーマは「リーダー職への意欲」向上のための魅力づくり

本調査では、次世代を担うリーダー人材に関して、不足感があると回答した企業は66.5%だった。リーダーを育成するに当たっての課題は、「リーダー職への意欲」不足がトップだった。労働者のうち約8割が「管理職になりたくない」と回答しているといった調査結果も踏まえると、リーダー職のモチベーションを向上させることが課題といえる。リーダー職のやりがいや存在価値、給与など「魅力」を明確に示すことで、意欲の醸成につなげる必要がある。

「人手不足によって管理職も現場業務を進める必要があり、育成どころではない」とのような声があり、業務の遂行を最優先にせざるを得ず、リーダー育成に手が回っていないというケースも多い。未来を見据えた教育体制を整備し、中長期的な視点に立った育成が求められている。

株式会社帝国データバンク福岡支店情報部 担当:丸山 翔大  
TEL:092-738-7779 FAX:092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。